

C 2024/6/9(日)13:50-16:50

「褥瘡の外用薬治療を阻害する病態評価と基剤ファーストの重要性」(実習形式)

講座情報

褥瘡治療は局所治療が汎用されており、その中でも外用薬治療が多く利用されている。しかし、薬剤選択やその使用方法が適切でないことから期待した効果が得られず、悪化や難治化することもある。薬剤選択だけでなく、使用した外用薬が創内に滞留せず、創外へ押し出されることで、効果を引き出せないこともある。治療効果が発揮されない要因は外用薬治療に必要な病態の評価とその対策、外用薬の選択や使用方法が外用薬の特性に見合っていないことなどが影響している。それらに着目しながら、外用薬が効く創環境を整えることが褥瘡治療には欠かせない。それにはフルタメソッドが不可欠となる。

講演 60 分、実習 120 分を予定しています。

《実習内容》

1. ブレンド軟膏の調製
2. 浅い褥瘡の処置
3. 深い褥瘡の処置（褥瘡シミュレーター使用）
4. 体圧分散を考慮したパット固定

《学習到達目標》

1. 褥瘡の発症と病態を理解する。
2. 薬剤滞留を阻害する病態と対策を理解する。
3. 基剤ファーストの意味を理解する。
4. 実技指導の実践を取得する。

講演者情報

古田 勝経

医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター センター長

プロフィール

<略歴>

- 1976年3月 名城大学薬学部卒
1976年4月 国立名古屋病院 薬剤科
1983年4月 厚生省 環境衛生局 家庭用品安全対策室
1990年4月 国立療養所東名古屋病院 副薬剤科長
2004年3月 国立長寿医療研究センター 副薬剤部長
2010年4月 国立長寿医療研究センター 臨床研究推進部 高齢者薬物治療研究室長
2015年4月 医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター長
国立長寿医療研究センター 薬剤部研究員

現在に至る

<認定資格>

日本褥瘡学会 褥瘡・創傷専門薬剤師

<所属学会・委員等>

日本褥瘡学会 学術教育委員会ガイドライン外用薬 WG 委員

皮膚褥瘡外用薬学会 理事長

医療薬学会

主要著書・参考文献

古田師範の褥瘡薬道場 フルタ・メソッド連戦連勝の極意(じほう)2023

褥瘡・創傷治療薬の使い方「フルタメソッドに基づいた皮膚褥瘡外用薬学会ガイドブック」: 月刊薬事特集号(じほう)2023

基剤ファーストによる褥瘡の外用薬治療(日本褥瘡学会誌)2023

褥瘡を早くきれいに治す方法～薬剤師が変われば、褥瘡治療が変わる！～薬学生涯学習テキスト(薬学ゼミナール)2023

ブレンド軟膏による壊疽治療(日本医事新報社)2022

薬剤師は褥瘡診療にどのように関わっている？(Visual Dermatology)2022

褥瘡外用薬の選び方・使い方: 外用薬を使いこなすために知っておくべきこと～古田メソッドから学ぶ～(日本褥瘡学会誌)202

褥瘡が早く治るブレンド軟膏レシピ(日本医事新報社)2021

古田メソッド: 外用薬で褥瘡を早く治すための視点(日本褥瘡学会誌)2019

これで治る！褥瘡「外用薬」の使い方(照林社)2017.

Active topical therapy by Furuta method for effective pressure ulcer treatment: a Retrospective study, Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, in Press, 2015.